

～市民と農業者をつなぐ
武蔵野市農業委員会だより～

むさし



第4号 平成27年4月
編集・発行 武蔵野市農業委員会
〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28
Tel 0422-60-1833 (直通)
Fax 0422-51-9193 (直通)



近年、都市農地は減る一方ですが、武蔵野市では、平成26年度に3件の生産緑地(約1140㎡)の追加指定がありました。貴重な農地を何としても残そうとの農業者の意気込みを感じます。

農業を取り巻く環境は、昨年の大雪や台風などの自然災害のほか、TPPや相続税の問題等、農業者にとって厳しい状況もありますが、国では「都市農業振興基本法(仮称)」の制定に向けての論議が本格化し、市では、平成28年度からの10年間を計画期間とする「農業振興基本計画」策定についての検討が始まります。

今後ともみなさまのご協力をいただきながら、安全・安心な武蔵野市の農業を守るため努めてまいります。

武蔵野市農業委員会会長 井口 良美

3件の農地が生産緑地として都市計画決定

生産緑地地区の指定までには、原則として2年にわたる耕作状況調査を行い、生産農地として持続性がみられるかの審査を行います。

生産緑地地区指定には、追加指定(新たな農地を生産緑地として追加するもの)・再指定(生産緑地地区指定を解除した土地を再度生産緑地に指定するもの)があります。

農産物品評会入賞者

平成26年11月8日に武蔵野市農産物品評会を開催しました。

市内59戸の農家から781点の農産物が出品され、以下の20品目が最優秀賞に選ばれました。

最優秀賞受賞者名	受賞品目
井口義一(関前)	青首大根、かぶ、かき
櫻井道久(関前)	聖護院大根、にんじん、キャベツ、ばれいしょ、かんしょ
田中武徳(吉祥寺北町)	さといも
後藤直久(境)	きゅうり
井口良美(八幡町)	ながねぎ ※南国の果樹「パッションフルーツ」の栽培の成果に対する特別賞を併せて受賞
後藤正昭(境)	ブロッコリー、うど ※うどは、10年連続最優秀賞のため、特別賞を併せて受賞
高橋清次(境)	中玉トマト
土屋正孝(境)	なす、ゆず
櫻井真二郎(関前)	カリフラワー
名古屋和宏(関前)	切り花(ハボタン)
高橋宏通(境)	みかん類
吉野隆夫(境南町)	キウイ



農産物品評会会場を飾る宝船



東京都の審査員が厳正に審査



東京都都知事賞の青首大根

農産物品評会で出品されたニューフェイス

コールラビ / アブラナ科



コールラビはキャベツの野生種を品種改良したもので、食感はキャベツの芯に似ていますが、柔らかく甘みがあるので、リンゴのようなさくさく感とみずみずしさがあります。浅漬だけでもおいしいです。

スティッキオ / セリ科

スティッキオは日本生まれのイタリア野菜。独特の香りが食欲をそそります。セロリより食べやすいです。



パッションフルーツ / トケイソウ科



甘酸っぱく香りがとても良いパッションフルーツは、ジュースやアイスクリームと一緒に食べるとおいしいです。

▲パッションフルーツの実



パッションフルーツの花▶

スティックセニョール / アブラナ科



ブロッコリーを品種改良したもので、茎が長く柔らかいです。おひたしや炒め物などいろいろな料理に活躍します。



▲調理の一例

フレッシュサラダ作戦

市内産の朝取り新鮮野菜を安価で提供するフレッシュサラダ作戦は、11月23日から12月1日まで、吉祥寺東急デパート北側広場、境南ふれあい広場公園および武蔵野市役所の3カ所で開催されました。

延べ44農家から、55品目2,213点の出荷がありました。販売は、毎回大盛況で寒い中を早くからお待ちいただいた皆様、ありがとうございました。

境南ふれあい広場公園にて▶



農家見学会

11月16日(土)秋晴れの中、市報で募集した20名の市民の方々が、品評会で数々の受賞経験のある3カ所の農園を、マイクロバスで見学しました。

今年も11月に開催します(野菜のおみやげ付)。ぜひご参加ください。

後藤農園 (境5丁目 後藤さん)



多品目の野菜を生産している中から、若者に人気のイタリア野菜のスティッキオやコールラビ、フルーツピーマンなどを試食させていただきました。新しい味や食べ方を覚えた参加者からは、今度我が家の食卓にも並べたいとの声が上がりました。

うど橋農園 (関前5丁目 名古屋さん)



花や野菜を栽培し、スティックセニョールなどの新種野菜にも取り組み中です。ユリやカラーなどポピュラーな花のほか、花束に添える切り葉用アスパラやユウカリ、プレウルムなどを栽培しているとの説明に参加者は興味深く聞き入っていました。

意見交換会 (JA東京むさし 武蔵野支店)



農園(圃場)の見学後、3農家の方々と農業委員も参加し、意見交換会が行われました。身近なところで新鮮な野菜が作られ手に入ることや、市民ボランティアをもっと活用してはどうかなどの意見が交わされました。

パープルファーム (関前2丁目 大坂さん)



好きなだけ、食べていいよ

ブルーベリー摘み取り農園に隣接する畑では、大根やかぶなど各種野菜を育てています。畑で小カブの収穫体験をし、その場で洗って試食させていただきました。取れたての小カブは何もつけなくても甘みがあり、「おかわり」の声が上がるほどおいしかったです。

イベントカレンダー (27年度上半期)

イベント名	時期	場所
栽培講習会 27年度市民農園使用開始者 初級講習会	4月4日(土) 講師: 福田 俊氏 (東京農業大学エクステンションセンター講師)	武蔵野市役所 西棟 8階 811会議室
武蔵野の農風景に写ター! フォトコンテスト作品募集	6月中旬から8月15日まで	市役所生活経済課で 応募作品受付
ほおずき市・野菜の即売会	6月下旬から7月上旬の月曜日	市役所 正面玄関前
夏野菜品評会 展示と試食会	7月初旬	市役所1階ロビーと 正面玄関前

※3月現在の予定です。詳しくは市報・市HPでご確認ください。



市内には農家が営む約40箇所の直売所があり、共同直売所として、JA新鮮館があります。第4号では、伝統野菜の栽培農家と果樹栽培している農家を訪ねました。

竹内昭博さん（境南町2丁目在住）

祖父・精十郎さんの時代は養蚕が主体で、圃場は桑・根菜類・陸稲などを生産し、筍の栽培も盛んに行われました。昭和初期には養蚕から養鶏に転じ、戦後父・邦雄さんが果・花菜類と通年収入のある採卵養鶏（平飼で1000羽）と組み合わせた体制を築きました。



昭和40年頃を契機に武蔵野では先駆けて果樹（ぶどう・梨・柿・ブルーベリー）を栽培し、現在は昭博さんが中心となり果樹専業経営となりました。

近年住宅が増え農業の飛散など問題視されていますが、防菜シャッターを取り入れ地域に配慮した取り組みも行っています。これからの都市農業は、市場出荷から生産者の顔が見える生産直売の「付加価値農業」の時代に入ったと語られていました。

後藤正昭さん（境4丁目在住）

後藤さんのお宅は、玉川上水ができた頃、保谷からこの地に移り農業を始められたとのこと。今回は、武蔵野伝統のウド栽培を中心にお話を伺いました。



ウド栽培を始められたのは、戦後まもなくの頃、お父様の時代からで、取材に伺った時は、一番重労働の根株をムロの中に入れて付ける作業中でした。

白くてまっすぐなウドを作るには温度・湿度・遮光等の管理が大切で、新芽が出てそれが成長する過程を見るのが楽しみだそうです。

現在は、ウド栽培に携わる農家は市内でも7～8軒になってしまいましたが、伝統的なウド栽培継続と後継者の育成が期待されます。

《援農ボランティア活躍中》

武蔵野市では、農家のお手伝いをする援農ボランティアを募集しています。ボランティアを希望する方は、半年間、(公財)東京都農林水産振興財団が開催する援農ボランティア養成講座に参加し、講義や視察を行うほか、市内の農家で10回以上の作業研修を行います。平成26年度は5名の方が卒業し、援農ボランティア認定証を授与されました。

平成27年度援農ボランティア講座受講生は5月15日号市報および市HPで募集します。ぜひご参加ください。

卒業生のアンケートより

- 夏の暑い時期の草取りは、大変ですが、土に触れている間は、嫌なことをすべて忘れられます。
- 市民農園とは土づくりから全然違い、勉強になりました。



▲市内農家での作業実習

編集後記

武蔵野市内の農地は、全面積の約3%と狭いですが、市内の農業者の皆さんは、直売所・イベント等に安心・安全な野菜を提供しており、地産地消の拡大に邁進しています。

農業委員会だより第4号も、関係各位および編集委員・事務局皆様のご努力・ご協力により発行できました。皆様に感謝申し上げます。今後も市民と農業者をつなぐ様々な話題や情報を提供してまいります。

編集委員／田中 恒男・櫻井真二郎・高橋 政孝・田辺あき子・土屋美恵子

農業委員会だよりの感想や今後取り上げてほしい記事などありましたら、農業委員会事務局 Tel. 0422-60-1833までお寄せください。